

産経新聞 東京朝刊 2020/12/23(水)

たのだから、新型感染症の拡散を止めた第一撃だったのである。医療の著しい進歩により人間の寿命が歴史上初めて急速な伸びを示し、これにより不死の時代でもやってくるのではないかと、いう思い込みが生命至上主義である日本人の平均寿命は、男性が香港、スイ士に次いで第3位、女性が香港に次ぐ第2位である。それでもなお長命を求めて倦むところがない。

コロナ禍のトラウマどう癒やすか



公益財団法人
オイスカ会長
渡辺 利夫

いるかの”といふ”である。

「人生100年時代」を厚労省
までが口にしている。日本抗加齢
医学会という名称のアンチエイジ
ングの組織である。学会の設立
趣旨には、「加齢現象や老化の研究
が進む中、日本の病的プロセスを
予防する抗加齢医学を積極的介入
する方法を基礎医学的・臨床医学
的に追求して実践することによ
り、生活者のクオリティオブライ
フの向上を図る」とある。“老化
の病的プロセス”という。老化は
ここでは治療を要する病だと捉え
られて“いるらしい”。

人類を襲った病のすべてを先人
たちは克服してきた。コレラ、チ
フス、ペストなどの法定伝染病や
肺結核などを制圧した医学・療養
の功績には大きなものがある。
HIV・MERS・SARS・
インフルエンザをなんとか凌いで
これらのも医学・医療の成果で
ある。これらの疫病をすべて克服
できたのだから、いかなる病も克服
できないはずはないというふう
に誤認してしまったのが現代人な
のではないか。

森田療法として知られる精神医学の創始者・森田正馬によれば、自然生命体である人間は「生の欲望」において生得的に強い存在であり、それゆえ生の欲望を妨げるもの、とりわけ「死の恐怖」において

信べ人能や

難いトコ
庄がある。
よ、この俺
さ日本人の
してほしい

ワマ
敬す

じて居座る可能性を回避する
政治家よ言論構えについて発

健康や長命といったことは、いくら追い求めてもおもよ切りついものがいい。健康や長命といつう観念はそれを追い求めたがために、ほどその観念に呪縛され、健やかに生きてることの実感を人々から奪ってしまう。健康というものは追求すればするほど「死の觀念」が人間を捉えてしまうのである。人生の背理であつた。

私たちも、不安や恐怖があるからこそこの厳しい現世を生きてこなす。しかし、と不安や恐怖を自分にもたらしたものや他者の中に求め、他者を差別し排除していく心理に導かれる。鉄道事業者共同で作成された暴力行為防止ポスターが、「たった二発で人生は終わる。」である。

人間は自然生命体であり、一生老病死シキがない人は居ない。このことを知らない人は何處に居るかわらず、声のことを云ふ事なると老人いても同様に強い存在だという。まつとうが人生を送らうと努力される限り、人が死の恐怖から解放されることはない。これが人間感情の本質ではない。

2020. 12. 23

'shimbun-d